



犬・笑・暮だより vol.70

ワンちゃんの車酔いを防ぐには



本格的な冬の到来！ この時期、ワンちゃんを車に乗せて外出される方も多いのではと思います。夏の車移動は熱中症に気を付けることが大切ですが、そのほかにはどんな配慮が必要でしょうか。時々耳にするのが、「ワンちゃんの車酔い。「出発して、30分もしないうちに」とか、中には「車に乗せただけでも」気分が悪くなってしまうワンちゃんもいるようです。

体質？ それとも経験から？

上下左右の揺れに弱い体質のワンちゃんもいますが、車酔いの多くは経験から来るものと言われています。特に車に乗せただけで、なんだか調子が悪くなってしまふ、そんなワンちゃんの車酔いは、明らかに経験から来るものではないでしょうか。きっとこれまでに、車に乗せられるたびに、病院に行って注射をされたり、体温を測られたり、トリマーさんのところで苦手なシャンプーをされたり、飼い主さんから離されて、ひとりぼっちになっちゃつなど、いろいろ不安な体験をしたのでしょう。

そんな経験を重ねていると、車に乗ると「また、あんなことをされるのかしら?」、「今度はどんな嫌なことがあるのかなあ?」となってしまう、気持ちが落ち込み、調子も悪くなってしまいます。

こうした経験から来る車酔いは、逆に、「車に乗ると楽しいことが起こる」という体験をさせてあげること、克服することができます。

まず、車に乗せてすぐに降ろし、遊んであげるなどの、楽しいことをやってあげます。何度も繰り返しましょう。車に乗ることが平気になり、乗ただけで楽しそうにいられるようになったら次のステップ。

エンジンをかけて、少しだけ走り、今度は降ろしてから楽しいことをしてあげます。最初は3メートルくらいから始めましょう。何度も練習しますが、楽しいことをするのは必ず降ろしてから。車の中で楽しいことをしてもらっていると、飼い主さんが運転している時にもして欲しくなり、事故の原因にもなりかねませんので、気をつけましょう。

3メートルが大丈夫になったら、10メートル、それも平気になったら5分ほど走るなど、少しずつ距離を伸ばしていきます。走るたびに楽しい経験をさせてあげていると、車に乗ることが嬉しいことの始まりだという気持ちになり、自然と車酔いはなおって行きます。



酔い始めたら気分転換を

元気にしていても、急によだれが多くなったり、落ち着かなくなってシートをしつこく舐めたり、舌を出したり引っ込めたりして口をパクパクしたりするようになったら、それは酔い始めたサインです。

安全な所に車を止めて、降ろしてあげましょう。しばらく気分転換してあげ、調子が戻ったらまた少しずつ練習します。

酔ってしまったら冷静に対処

酔って嘔吐をしてしまったら、「大丈夫だよ」と安心させて、なるべく静かに対処をします。この時に、「アッ!」と思わず叫んでしまったり、慌ててパタパタ動いてしまうと、ワンちゃんにとってはそれがまた酔いの原因になってしまうこともあります。

事前の準備も大切

乗車は、食後十分に休ませてからのほうがいいので、出発時間から逆算して食事をあげる時間を調整します。どうしても時間的に無理な場合は、食べさせないで乗るほうが安心ですね。

また、前もって獣医さんに酔い止めの薬をもらい、飲ませておくのもいいでしょう。それから、途中の休憩は早め早めに何度も取ることも大切です。

飼い主さんもワンちゃんも快適で楽しい移動となるように、ビニールや濡れタオル、シート、飲み水なども十分準備して



愛犬に関するお住まい・お庭のお悩みは **庭遊館** にお気軽にご相談下さい



携帯サイトはコチラ!!

庭園工事・外構工事・管理・設計施工

株式会社 庭遊館

〒504-0945 各務原市那加日新町6-65

TEL 058-216-3110

FAX 058-216-3113

<http://www.teiyukan.jp>

